

2020（令和2年）年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、87社（正会員51社、賛助会員36社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2020（令和2）年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）ペットフード産業実態調査を行い、その結果が以下の通りまとめられました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は337,611百万円で、対前年度比は105.7%と、5年連続での増加となりました。

しかしながら、出荷量は、588,181トンで、対前年度比99.2%と減少しました。主要点は以下の通りです。

1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比102.9%と増加、猫用の出荷額も対前年度比108.1%と増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用も出荷額は、対前年度比105.0%と増加しました。

2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の51.8%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比100.6%とほぼ横ばいでした。

全体の15.9%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比107.2%と増加しました。

猫用は全体の49.6%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比105.4%と増加でした。

全体の46.9%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比111.0%と増加しました。

3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比99.0%と減少しました。輸入品の出荷量は対前年度比99.5%と減少しました。

4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比96.1%と昨年に続き減少しました。猫用の出荷量は101.8%と昨年に続き増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は対前年度比101.3%と増加しました。

5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の 67.0%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 95.5%と昨年に続き減少しました。全体の 13.0%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 96.2%と減少しました。

猫用は全体の 63.9%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 101.7%と昨年に続き増加しました。全体の 35.0%を占めるウェットタイプの出荷量も対前年度比 101.8%と昨年に続き増加しました。

6. 出荷数量：国内生産品

国内生産犬用の出荷量は対前年度比 95.6%と昨年に続き減少でした。
国内生産猫用の出荷量は対前年度比 101.4%と昨年に続き増加となりました。
国内生産のペットフード合計は対前年度比 99.0%と減少しました。

7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比 96.6%と昨年に続き減少しました。
一方、輸入品猫用の出荷量は対前年度比 102.2%と増加しました。
輸入品のペットフード合計は対前年度比 99.5%と減少しました。

8. 国別輸入数量

今年度、国別輸入量において最大の輸入国はタイ、フランス、アメリカの順でした。
輸入国増減率では、フランス、タイ、アメリカ、オーストラリア、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、台湾、インドネシアの輸入量が増加しました。
一方、オランダ、チェコ、カナダ、ポーランドの輸入量は減少しました。

以上